

奈良県指定文化財調査票

調査日	2021 年	2 月	19 日	記入者	西田裕美	
調査者名	小倉	春日	仲谷	西田	安川	

文化財名	ツボリ山古墳					
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()	
指定年月日	1973年(昭和48)3月15日					
所在地	生駒郡平群町福貴1049の108, 109					
所有者 管理者	平群町					
員数						
時代区分						
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)		
案内板の状況	奈良県教育委員会による説明板あり 汚れなし					
公開	見学自由 石室前に柵があるが、開けて中に入ることができる。					
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い	
	補足 ()					
当面の課題	特になし。植え込みの樹木もきれいに剪定されて、石室への通路が確保されていた。古墳の前の案内板や、竜田川沿いの道路からの曲がり角にあった道しるべもきれいで分かりやすかった。					
今後の課題	特になし。					
その他 (由緒など)	削平されているのではっきりとわからないが、一辺20mほどの方墳の可能性がある。玄室と羨道にそれぞれ一基の二上山凝灰岩の刳抜式家形石棺がある。玄室の石棺は身部の半分と蓋石の半分が残っている。蓋石には大きな縄かけ突起がある。羨道の石棺には蓋はなく、身部も側面はほとんどない。7世紀初頭のものと思われる。					
コメント	住宅街の中で、石棺が二つもある石室に入ることができるのがありがたい。斜面にあるので南側と東側の眺望が良く古墳らしさを感じた。開発で墳丘が削平され裾も切断されているようだが、既に平群町の管理となっておりこれ以上に開削されることはないと思われる。このまま町で管理して欲しい。					

